古典と遊ぶ

春爛漫 狂言会

雪月花 ～狂言で愛でる日本の四季～

祝！人間国宝 認定！

13:00開演（12:30開場）
みんなで楽しく狂言会

全席指定 1,000円（税込） 3歳以上有料
（3歳未満のお子さまでも、座席が必要な場合は有料となります）

解説：茂山宗彦

「居杭（いぐい）」
居杭：茂山 蓮
何某：茂山千之丞
算置：茂山 茂

「蟹山伏（かにやまぶし）」
山伏：茂山千五郎
強力：茂山宗彦
蟹の精：茂山逸平

15:30開演（15:00開場）
お豆腐狂言会
雪月花～狂言で愛でる日本の四季～

A席 5,000円 B席 3,000円（全席指定/税込）
※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

解説：茂山逸平

「木六駄（きろくだ）」
太郎冠者：茂山千五郎
主人：茂山竜正
茶屋：茂山 茂
伯父：茂山宗彦

「月見座頭（つきみざとう）」
座頭：茂山七五三
上京の男：茂山千之丞

「花折（はなおり）」
新発意：茂山逸平
住持：茂山あきら
花見の衆：茂山宗彦　茂山虎真
島田洋海　山下守之
井口竜也　鈴木 実

2024年 4月20日（土）

兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口スグ／JR西宮駅より徒歩15分（阪急バス7分）

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255（10:00-17:00 月曜休み ※祝日の場合翌日）

一般発売 11/26（日）	チケット予約	●芸術文化センター 0798-68-0255 https://www.gcenter-hyogo.jp　芸術文化センター会員先行予約受付開始 11/25（土）
		●チケットぴあ https://pia.jp/t/ ●ローソンチケット https://l-tike.com ●イープラス https://eplus.jp
直接購入	芸術文化センター2階総合カウンター【11/28（火）より、残席がある場合のみ】	

兵庫県立芸術文化センター

※プレイガイドでの取扱については各プレイガイドにお問合せください。
※やむを得ない事情により、内容・出演者等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

古典と遊ぶ

春爛漫 茂山狂言会

江戸時代から続く京都大蔵流・茂山千五郎家の「お豆腐狂言」。
芸術文化センター開館以来毎年開催し愛されている春の恒例行事です。
「みんなで楽しく狂言会」は、0歳から家族みんなで楽しめる公演。
解説付きの1時間で、狂言デビューにもおすすめです。
「お豆腐狂言会」では、「雪月花」をテーマに古典の名曲をおおくりします。
お花見を楽しむ「花折」、月見の風情が感じられる「月見座頭」、雪景色を描いた「木六駄」、
日本の四季をたっぷり感じる2時間。
この度めでたく人間国宝に認定された茂山七五三さんも登場！
茂山家勢ぞろいで、にぎやかに華やかに春の和らいをお届けします。

みんなで楽しく狂言会

「居杭」

居杭という名前の男は、日ごろより世話になっている知人が、なにかというと居杭の頭を叩いて可愛がってくるので困っています。困った居杭は清水寺へ行き願をかけたところ、一つの頭巾を授かります。この頭巾というのが被ると透明人間になるという代物！居杭はさっそく試してみることに。居杭の姿が急に見えなくなったことに驚いた何某は、算置（占い師）を呼び入れ占いで探し出そうとしますが…

「透明人間」になれるという夢のような頭巾が登場するファンタジー性あふれた作品です。
昔の人も透明人間に憧れたのですね。
居杭役はいつの頃からか子方がつとめる事が多くなっています。
可愛い居杭のいたずらをお楽しみに！

撮影：桂 秀也

「蟹山伏」

修行を終えた山伏が、弟子の強力を連れて故郷へ帰ろうとします。途中、江州（近江国・現在の滋賀県）蟹ケ沢へ通りかかると、急に空がくもり、目の前に奇怪なものが現れます。二人はそれが蟹の精であると気づきます。強力が金剛杖で打ちかかると、逆に耳を挟まれてしまいます。それを引き離そうと祈る山伏もまた耳を挟まれてしまい…

蟹の精の扮装がユーモラスで、全体的におとぎ話のような展開でわかりやすい作品です。

撮影：上杉 遥

お豆腐狂言会

「木六駄」

主人は、薪を六駄、炭を六駄と酒樽を都の伯父に贈るため、牛に背負わせ、太郎冠者に届けさせます。大雪のなか、牛を追って峠の茶屋にたどりついた太郎冠者は酒を注文しますが、品切れだったため、届けるはずの酒に手をつけてしまいます。さらに茶屋の亭主にも酒をすすめ、二人で酒盛りになってしまいます。太郎冠者は酔った勢いで薪まで茶屋にやってしまい、残りの炭六駄を背負った牛を追って伯父のもとへ行きます。主人からの手紙を読んだ伯父に、薪六駄の行方を尋ねられた太郎冠者は…

舞台に登場しない十二頭の牛を見えるように演じるのは至難の技であり、降りしきる雪のなかで勝手に動く牛を束ね、追っていく太郎冠者の奮闘ぶりが見どころです。

撮影：川西善樹

「月見座頭」

中秋の名月の夜、下京に住む座頭（盲人）が、野辺へ虫の音を聞きに出かけます。そこへ月見にやってきた上京の男。意気投合した二人は月を愛で、酒宴を始めます。月見の宴が終わった二人は、互いに名残を惜しみながら気持ちよく別れますが、上京の男がふといたずら心を出し…

初秋の涼しげさの中に、ほのかな温かみをつつんだ美しい趣向ですが、ここで終わらないのが狂言。前半の風流でほのぼのとした場面から打って変わっての後半の冷酷さ、人間の善悪の二面性が描き出された名作です。

撮影：川西善樹

「花折」

住持は寺の庭が荒らされるので、新発意（仏門に入って間もない者のこと）に花見禁制の留守番をするように命じ出かけます。そこへ花見客がやって来ますが、新発意が中に入れてくれないので、垣根の外で酒宴を始めます。楽しそうな様子に我慢が出来なくなった新発意は花見客を庭に入れてしまいます。そして舞えや謡えやの酒盛りに加わってしまい…

この狂言には桜の“作り物”が登場します。狂言でこのような“作り物”が登場するのは実は珍しいことなのです。みなさんもお花見気分で「花折」をお楽しみください。

撮影：上杉 遥

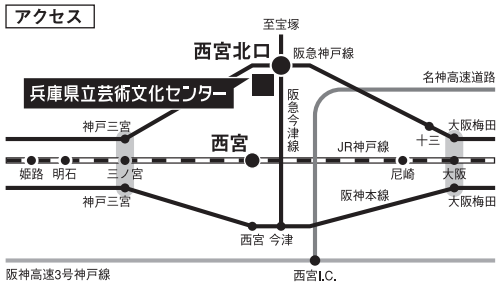
https://www.gcenter-hyogo.jp

兵庫県立芸術文化センター
Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員へのご登録はこちら

便利なアクセス!!

大阪梅田からも神戸三宮からも
ホールまで15分
（阪急電車特急乗車の場合）

◎阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ（連絡デッキで直結）
◎JR 西宮駅より徒歩15分（阪急バス7分）
※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

アクセス